

# 中期苦難の時代の記録

月報 昭和20年2月 ～終戦前最後の月報

## 上田郷友會

昭和二十二年二月  
報

## 上田郷友會

東京都本所區江東橋一丁目九番地  
瀧澤七郎氏  
電話本所四四〇七番  
電費東京六五〇七番

### 二月例会記

二月例会の大體。今日は格別にも寒い。例則には大空襲も瀧川老。立川君等にてぼつ／＼見へて鐘約二十五名の多数に及んだ。瀧澤君等は四時頃に見へた。議会の委員等に選れたと陳謝するかと思へば委が思へた。同連峰會館にて軍備關係者の會合があるので、その司會を勤めて後、こちらに來られた。例に依り會員を紹介し思ひ／＼の懇話を重ねるうちに息詰まるやうな話もあちこちから出た様であつた。

宮入博士よりは防空に對する心得方、即ち患者取扱の上より見ても待遇の細かな御注意と又心強き話もあつた。久々に出席の高松君よりは、吉祥寺方面の被害状況、並に待避につき更に實踐に即しての話もあり、頗る有益で水科君よりも補足せられた。御互が一日を無事で居る事が何よりである。

瀧澤幹事より半田四一君の被害の報告があり、且つ此の事情を聞いて、見舞はれたる各位に、半田氏に代り謝意を述べられた。

御高山九二君の嚴父、並に令兄俊衛兼伯祖去の報告があつて、君に謹言申意を表せられた。

### 出席者氏名

- 岡村 得 瀧川金三郎 立川雷平
- 岩崎松太郎 高山九二男 木村 勉
- 五十川博也 鈴木三郎 中山輔次郎
- 波多野 深 柳澤信平 高桑 藤雄
- 瀧澤 謙三 横田地 三 井 純一
- 居合 伍郎 榎島 巴 三井 純一
- 田中 芳雄 武内 守策 馬場 和男
- 宮入 清四郎 瀧澤 七郎 山浦 貫一
- 赤羽乙次郎 水科新一郎

### 上田便り

上田獅子踊りの試寫會。海軍省の前線慰問映畫甲信使りは上田市の古城を背景とした、上田獅子踊りも撮影されてゐるが、今回完成したので七日午前十一時上野映畫劇場で關係者に試寫を公開し、なほ八日は午前十時から出張家に觀賞させた。

長出席して協議會を開いた。今年利用し得る券類は四千九百八十町歩で、昨年八月農林統計による五千五百町歩に對し九〇％で、改組及産米類の繰換などにより出来得る限り必要面積の確保のため、又昨年には當り収入十二貫であつたが、進利利用客士などによつて農園努力引上りされた。今年は反當十四貫四百圓を増産目安として、那目穂二十一萬九千貫の目標達成に努力する。其他、農方策として産米共闘の徹底等懇話會、説教會の功績等表彰も同時行ふ。尙尙上昨年八月から實施した貯蓄全供出運動は産米農家の意欲を低下させてゐるが、今年も行ふかの質問に對し、瀧澤議長は雖としても目下研究中と答へ、あはせて産米共闘者も一月末から改善されたことがつけ加へられた。

### 會員便り

- 一、佐藤教三君、小縣郡野尻村に健在。
- 一、馬場和男君、芝區三田町一番地にあり。
- 一、磯崎太朗氏、昭和十九年十一月二十九日享年八十才を以て永眠せられたる旨、麻布區飯倉町五ノ六附子磯崎利榮氏より通知あり。可憐。
- 一、田村嘉朗君、目黒區芳原町九二（電話在原五三三四番）へ臨時移轉せられた。
- 一、水科建雄君、北海道富良野長として雲中活躍せられたるが、上田城再建會中へ寄附金を送付せられたり。
- 一、村二郎君、會員高山九二君の嚴父、林俊衛兼伯は二郎君の長男、なるが、一月十日午前八時浦和市外別所沼の芝園にて肺炎の爲に急逝せられたり。
- 一、宮下壽君、芝園田村町五十五番地にあり。
- 一、花岡千波君、兵衛區西百八風北五號（轉居、日本製藥株式會社清算事務所従事）。
- 一、古松安子君、故古松松太郎君令室、上田市藤原町六六六番にあり。
- 一、瀧川金三郎君、半田四一君の被害見舞として、金一封を本會の手を經て寄附せられた。
- 一、鈴木陽一君、朝鮮水浦市大和町三二二、會費を送らるゝと共に、金五拾圓を上田城復興費として一割寄金五拾圓は昨年、御通函を頂きました上田城移轉改築工事費として寄附致します。誠に郵少で御はづかしく存じますが上田に生を享けたもの、心ばかりの誠を、よろしく御取計ら下さいませす様御願ひ申上けます。との御手紙が添てありました。遠く朝鮮に

月報は、昭和19年には印刷する紙が無くて、部数を限定してガリ版で印刷された月もあった。昭和20年2月までは上記の形式で上田郷友會月報は発行されたが、3月10日の大空襲で本所にあった資料が全て焼失したため、昭和20年2月（上記）が戦前発行された月報の最終版となった。

## はがき 昭和20年10月・12月 ～戦後直後の月例会開催のお知らせ

上田郷友會報告、三月例会が最後の例会となり報告原稿を印刷所に届けた翌日三月十日大空襲瀧澤幹事は江東橋川に没すること二時間餘僅かに身が免れたが翌十一日は避難地たる江戸川區工場より三里徒歩三時間開議に出席せられ中野武の別邸に入られしが五月二十六日再度の空襲、宮下老は沼田町疎開地より横濱に用られしが幸に早くも上田市原匠町切り通しに疎開福災を免れた、半田君は三度の災ひの後小縣郡神村村に成澤金長君氏に小縣郡神村村上郷に、鈴木三郎氏に福災、水科氏は先子に亦金井博士に成澤村金期寺にて新聞見聞、ラジオも聞かぬ田舎生活に轉進せらる。

九月八日瀧澤氏の田舎に、渡井、成澤、半田、金井の四氏が會談したが更に、十月廿一日瀧澤氏宅に半田四一、松野英太郎、井上聖助、津井敬吾、兒玉新一、伊藤平、藤井守太郎、小林文平、町田忠一郎、武田權次郎、寺島清八、門倉信風、久保田勝次郎、瀧澤正智等、宮下翁、金井氏は雨の爲に不參。

東京都江戸川區原野草田二〇六三（瀧澤七郎氏宅）  
上田郷友會  
（上田市新町瀧澤方）

### 報 告

◎ 昭和二十年十二月二日町町風丸の内三丁目八番地常盤屋三階自由本部に於て例会を再會せり思ひ用子盛及住居所御告知の方三十一名に寄書を出したるが定例參會者左記十八名  
瀧川金三郎、三井 純一、居合伍郎、瀧澤 謙三、半田 一、渡多野 深  
高山九二男、立川 雷平、土原浦太郎、瀧澤 謙三、山浦 貫一、波多野 深  
奥田 五、岩崎松太郎、林 茂、鈴木 三郎、松尾 茂、瀧澤 七郎  
以上、三月會合後九月日に開會中に當座出品料理を珍らし各自の辨當を聞き  
のんびりせる敷時間を過せり、本日は原浦太郎氏母屋のトランプ遊術に於てはせらる  
◎ 御今春より土曜日午後一時より町町風丸の内三丁目常盤屋三階自由本部の談話室にて例会を開く事に決せり何卒御忘れなく御出席を乞ふ、例に依り寄書に署名を申請に願せり  
◎ 高山九二男君より名刺費として金百圓也寄附あり、例に依り御報告による者、複製焼失による者、會員各位若等會員の住所御承知の方は名刺作製の必要あり御報告を乞ふ。

### 上田郷友會

東京都江戸川區原野草田二〇六三番  
瀧澤七郎氏方  
上田郷友會

